

子どもたちに農業を伝える

～農業体験学習～



6月14日、札幌市立向陵中学校2年生の生徒76名が剣淵町を訪れ、町内20戸の農家で農業体験学習を行いました。

剣淵町での農業体験は、平成19年から東川町にある体験型観光を扱う会社の呼びかけで始まりました。毎年、札幌市や兵庫県から中高生が農業を体験するために剣淵町を訪れています。今回、農業体験に訪れた向陵中学校は、生徒数が800人を超える札幌市内でも一番大きな学校で、剣淵町を訪れるのは3年連続となります。

道の駅絵本の里けんぶちで行われた受入式では、清水副町長と受入れ農家を代表して高橋毅さんから歓迎の挨拶があつた後、中学生の代表から「短い時間ですが、農業のことを学びたい」と挨拶があり、それぞれの受入れ農家に移動して農業体験を行いました。

受入れ農家では、カボチャの定植、ホウレン草の袋詰めやアスパラガスの収穫等を手伝いました。初めて行う作業に戸惑いながらも、農家のお母さんやお父さんと楽しく会話をしながら、農家の仕事を体験していました。「今までやったことがないことなので、難しく感じるけど楽しい」と農業体験をした中学生は明るく話していました。



離町式では、受入農家を代表して榎本秀典さんから「今日は少ない時間の農作業となりましたが、少しでも農業を分かってもらい、今後スープ等で野菜を見たときには、我々農家の顔と剣淵町を思い出して欲しい」と中学生に呼びかけていました。

農業振興センターに話を伺うと、「農業体験は、毎年、6月と9月に行われています。次回の農業体験学習も、忙しい時期となります。生徒の受入れを農家の方にご理解とご協力をいただきながら、訪れた生徒が楽しく農業体験ができ、少しでも農業に興味と理解を持つてもらえるようにしていきたいと思います。」と話していました。

次回の9月も子どもたちが農業体験を頑張っている様子が見られることを楽しみにしています。



お問い合わせ先

剣淵町農業振興センター(電話34-3311)